



▶反応タンクの建設は順調に進んでいる。この仕事は全て彼に任せられている。父親に説明する声にも、つい熱がこもる。

天草陶石にかける

天草郡苓北町
木山勝彦君

東支那海の荒波に面する天草郡苓北町都呂々。ここにある陶石鉱業所に、「下級陶石の脱鉄による上級化」という、新しいテーマの企業化に、青春の意欲を燃やす若者がいる。木山勝彦君(25)。会社の後継者でもある。

陶磁器の原料として全国的に知られる天草陶石も、最近山の状態が悪く、鉄分の多い中級品以下のものが大半を占める。従って、下級陶石の化学処理による上級化が、業界の課題でもある。県工業試験場の試験研究の上で、彼を中心とした、約1年半にわたる現地での実験の結果、企業化の見通しが立った。現在、4月からの本格的な操業開始めざして、90t入りの反応タンク6基を建設中。「これが今までは殆んど捨てられていた石を脱鉄して製品化したものです。上級の石を使ったものと白さは変わらないでしょう。説明する彼の声は、自信に満ちて明るい。「これまでは、原石に対して研究不足だったと思う。」とズバリといいきる。

当面の目標は、脱鉄の企業化確立、そして将来は、陶磁器の生産まで持っていきたいと意気盛ん。将来、企業を継ぐ仲間たちとの連帯感を強めるために、進んで本渡市青年会議所のメンバーに入ったという彼。そこにも、旺盛なる業欲と、新しいセンスで陶石に取り組む、近代的な企業マンの積極的な姿勢があった。



▲脱鉄の企業化の成否が、明日の天草陶石の振興に及ぼす影響は大きい。脱鉄した陶石を見つめる目も真剣だ。

例えば交通にしても通勤通学など局限された時間帯に大量の交通、輸送力が問題となる。都心部との交通網が現実を整っていない地域では幾ら広い土地があっても大型団地の開発は不適である。

「武蔵ヶ丘団地」の全ぼう……★

「武蔵ヶ丘」の団地規模は熊本市竜田町三十四万九千八百平方メートル、菊陽町津久礼二十四万四千二百平方メートルにまたがる五十九万四千平方メートル(六十ヘクタール)の県下最大の住宅団地である。

一帯は標高八十メートル程度の高燥な畑作地帯でゆるやかな起伏があり、宅地造成は容易である。しかも九州縦貫道から三百メートル以上離れており、自動車の騒音もさして気にならないであろう。

開発計画は下表のとおりであるが開発主体は、用地買収、宅地造成、分譲住宅関係を熊本県住宅供給公社、公営住宅建設を県が担当する。

四十二年春から交渉を続けて難行した用地買収は四十四年十二月は完了し

武蔵ヶ丘団地開発計画

	数	量	金額	摘要
用地買収費	180,000	坪	1,350,000	千円 処理場を含む
造成費	570,000	m ²	570,000	
住宅建設費	3,290	戸	5,001,700	
公営住宅	2,500	戸	3,875,000	
積立分譲住宅	600	戸	828,000	
一般分譲住宅	70	戸	112,700	
産労分譲住宅	120	戸	186,000	
施設費			917,000	
小学校	1	校	247,000	
中学校	1	校	176,000	
公園緑地	20,000	m ²	24,000	
上下水道			80,000	
ガス			350,000	
電			30,000	
計			7,843,700	15,000

年度別住宅建設計画

種別	年度	46	47	48	49	50	51	52	53	計
積立分譲住宅			50	100	150	200	100			600
一般分譲住宅			20	20	30					70
宅地分譲			30	50						80
優先分譲	120	40								160
公営住宅		290	320	290	90	500	500	510		2,500
産労分譲住宅		24	24	24	48					120
計	120	454	514	494	338	600	500	510		3,530

た。四十五年夏頃から宅地造成に着工し、五十三年に完成予定である。建設費は表に見られるとおり直接経費七十八億五千万円、街路その他関連施設整備費を含めると約百億円に達する。

団地は、区画整理によって宅地化され上・下水道、汚水処理施設、公園緑地、幼稚園、小・中学校、ショッピングセンター、集会所、診療所、郵便局、金融機関、警、消防署、バスセンターなど、

都市生活に必要な施設が完備し、太陽と緑と新鮮な空気に恵まれた閑静な住宅街区が開発される。(住宅課)